

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2022年5月1日 224号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



①旅支度中。3月17日



③フランクフルト空港にて。3月24日

⑤アスンシオンのホテルの庭で朝食。3月29日



②羽田空港で見送り。3月23日



④アスンシオン空港に到着。3月24日

島田さんの家庭がレダへ移住！

本紙前号でお伝えした島田家庭の6名は、3月23日の昼前、羽田空港よりバラグアイの首都アスンシオンに向かって飛び立ちました。同じ便で、豊村氏、水落氏と、青年の岩本君も出発しました。一行9名を見送りに行つたのは10名。出国手続きに入る一行に手を振つて見送つた後、空港屋上の展望デッキに立ち、一行を乗せたルフトハンザ機が大空の彼方に見えなくなるまで見守り、旅の無事を祈りました。

旅の一行はフランクフルトとサン・パウロで飛行機を乗り継ぎ、翌24日の昼にアスンシオン空港に到着しました。旅の途中、島田賢二さんはSNSに次のように投稿しました。

「ロシアの領空を避けるルートで15時間半の飛行を終え、今、ドイツ・フランクフルトに到着しました。赤ちゃんがなかなか眠らなかつたり、家に帰りたいと泣き出す子がいたり、着陸の時耳が痛いと泣く子がいたりして大変でした。なだめてあげられた時もあれば、怒つてしまつた時もありました。親は自分で決意して行くので、申すが、子供たちは付き合わされて行くので、申し訳なく思いました。」

「予定通りブラジル・サンパウロまで到着しました。もう一息です。子供たちは、一回目の飛行より大人しくしてきましたが、疲れとストレスが溜まっている感じです。特に下の2人は起きている時かなり不安定で、ぐずるのを妻と交互になだめながら行きました。いつ泣き出すか分からぬ子供たちを見守りながら、何とかこの試練を乗り越えてほしいと祈りながら、さすがに抱っこしたり、トイレに連れて行つたりしました。自分ではなく、子供たちに勝利してもらわなければならぬ状況で、見守り励ますしかねない、祈るしかない時間を過しました。」

さらに2時間の飛行で、アスンシオン空港に到着。中井氏と佐野氏が一行を出迎え、ホテルに案内しました。島田家庭は移民局で永住許可を申請し、4月20日頃にレダ到着の見込みです。

月23日の昼前、羽田空港よりバラグアイの首都アスンシオンに向かって飛び立ちました。同じ便で、豊村氏、水落氏と、青年の岩本君も出発しました。一行9名を見送りに行つたのは10名。出国手続きに入る一行に手を振つて見送つた後、空港屋上の展望デッキに立ち、一行を乗せたルフトハンザ機が大空の彼方に見えなくなるまで見守り、旅の無事を祈りました。

旅の一行はフランクフルトとサン・パウロで飛行機を乗り継ぎ、翌24日の昼にアスンシオン空港に到着しました。旅の途中、島田賢二さんはSNSに次のように投稿しました。

「ロシアの領空を避けるルートで15時間半の飛行を終え、今、ドイツ・フランクフルトに到着しました。赤ちゃんがなかなか眠らなかつたり、家に帰りたいと泣き出す子がいたり、着陸の時耳が痛いと泣く子がいたりして大変でした。なだめてあげられた時もあれば、怒つてしまつた時もありました。親は自分で決意して行くので、申すが、子供たちは付き合わされて行くので、申し訳なく思いました。」

「予定通りブラジル・サンパウロまで到着しました。もう一息です。子供たちは、一回目の飛行より大人しくしてきましたが、疲れとストレスが溜まっている感じです。特に下の2人は起きている時かなり不安定で、ぐずるのを妻と交互になだめながら行きました。いつ泣き出すか分からぬ子供たちを見守りながら、何とかこの試練を乗り越えてほしいと祈りながら、さすがに抱っこしたり、トイレに連れて行つたりしました。自分ではなく、子供たちに勝利してもらわなければならぬ状況で、見守り励ますしかねない、祈るしかない時間を過しました。」

さらに2時間の飛行で、アスンシオン空港に到着。中井氏と佐野氏が一行を出迎え、ホテルに案内しました。島田家庭は移民局で永住許可を申請し、4月20日頃にレダ到着の見込みです。



ハイホティアオイ



岩澤所長、滝川君、大元氏がパクー稚魚放流式のため、バイアネグラ市長と打ち合わせ。4月9日



レダ基地スナップ



今レダでは雨と蚊が多い。3月26日



竹内君からプレゼントが来た。3月27日



岩本君を歓迎するケーキ。3月30日



夕暮れの公館にて。

Q レダで最もうれしかったことは何ですか？
A 原理を実体験し、神様の大きな深い愛に気づくことができたことです。人間に生まれてきて本当に自由かつたと思いました。私は過去の経験から人は醜く

▲担当したプロジェクトでもつと貢献したかつたのですが、私は専門的な知識がなかつたので、どうしても力不足で、人と比べてしまうこともあり、独り泣くこともありました。

壁は白く屋根は
レンジ色、とても立派
で天寶苑(清平)のようだと思いました。ここでどんな
経験ができるのか、胸を高鳴らせていました。



と A た Q

Q レダではどんなことを担当しましたか？
A 海老養殖の責任者である川久保安史さんのアシスタントを勤め、農業もあわせて担当しました。

レダ体験者へのリモートインタビュー
ヌワビシ珠江ジェシカさん…昨年4月にレダに赴き、今年2月に帰国するまで、熱心に奉仕活動に取り組んできました。第21回国際協力青年奉仕隊員。



アナコンダです



大好き。

顔にしたいです。関心のある職種はたくさんあるので、導きと縁のある職業に就いて貢献したいと思っています。そしていつの日か、様々な経験と知識を活かして、貧しい国やアフリカで養殖の仕事をして食糧問題・飢餓問題が解決できるよう、父母様のみ言を実践したいと思っています。

持続可能な福地建設をめざして

和田賢一
11

あらゆる不平等をなくそう

10 人や国の不平等をなくそう



国際連合（国連）の持続可能な開発目標（SDGs）のゴール10は「各国内および各国間の不平等を是正する」というもので、女間の平等の在り方についてではなく、人としてあらゆる分野における「不平等」を是正することを目指としています。

ゴール10では、7項目のターゲットと3項目の実施手段を示しています。その中で「ターゲット10・1」を見てみましょう。それは、「2030年までに各国の所得下位40%の（人々）所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させること」です。

世界的な権威のある調査機関「世界不平等研究所」の「世界不平等レポート2022」によると、世界トップ10%の富裕な家庭が所有する富は成人一人当たり約7790万円で、全体の75・6%を占めています。一方、世界の中央値を下回る50%の貧しい家庭が所有する富は成人一人当たり約41万円で全体の2%に過ぎません。世界の全体の富の大半が富裕層によって握られているということになります。

富者と貧者の格差は大きいものです。したがってターゲット10・2では、「2030年までに、年齢、性別、障害、人種、出自、宗教、あるいは経済的地位、その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化および社会的、経済的、政治的な包含を促進する」と呼び掛けざるを得なかつたのでしよう。

格差の存在、また格差の拡大は、国家内でも、あるいは国家間でも、嫉妬を生み、それが高じて対立・鬭争、はたまた紛争・戦争へと繋がつて行く可能性を秘めていると思われます。そしてターゲット10・3では「差別的な法律、政策および慣例の撤廃、ならびに適切な関連法規、

政策、行動の促進など通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する」としています。

もう少し具体的に格差の実態を見てみましょう。

社会保障を考えますと、わが国的一般会計予算は100兆円を超し、年金、医療、介護、子育てなどの歳出は約3分の1を占めており、充実しているといえましょう。

では世界ではどうか。家族の収入が無くなつた家庭の子供を助ける制度がある国は36%だといわれています。また、重度障害者で障害者年金を受けられる人の割合は28%。

失業手当を受けらる失業者の割合は22%というデータが出ています。これらは、個々の国々の課題として、政府や自治体の実効ある行動を期待するものです。

2015年、インドネシア政府は、サウジアラビアを含め、中東諸国21か国と地域へのインドネシア人メイドの派遣を禁止すると発表しました。2014年、海外渡航したインドネシア人労働者は約43万人、そのうち女性が約13万人。インドネシア政府がメイド派遣を禁止した理由は、一部の雇い主のメイドへの過酷な労働や虐待などの人権侵害が相次いだからというのです。

移住労働者を送る側、引き受ける側、双方ともに大きな利益を生み出します。インドネシアの女性が一年間に約9500億円稼ぎだし、貴重な外貨収入となつてきました。また労働者不足に困る中東の国々の解決策の一つでもあつたのです。

となると、こうした事件・事故による国際的な摩擦はいかに解決の道を見いだしたらよいのでしょうか。人ととの関係は、経済的で、文化的であります。守る政策がある国とない国」という点から考えてみます。国連広報センター・ホームページによる



レダのスタッフと地元の従業員たちのクリスマス会。昨年12月

移民や人々の国境を越えた移動は世界の経済の活性化、開発途上国に向ふにもつながっています。世界銀行のデータによると、2018年に移民が母国に送金した額は約64兆7900億円にのぼっています。

ます。そのうち約58兆1900億円は開発途上国であります。あととみられています。

先進国と途上国の格差を是正する一つの手立てとして、移住労働者の送金コストを3%未満に引き下げ、コストが5%を超える送金経路を撤廃することをSDGsでは提案しているのです。

最近、話題となつたニュースで、中東湾岸諸国に出て稼ぎに行つた東アジアの移住労働者が、高気温の中で長時間働かされて死亡、その原因は不明のまま遺体は祖国に帰されるケースが相次いでいるというのです。労働者を送つた国と遺族は「死亡原因を明らかにせよ」と迫つてているのですが、両国の話し合は平行線だといわれています。

出稼ぎに行つた東アジアの移住労働者が、高気温の中で長時間働かされて死亡、その原因は不明のまま遺体は祖国に帰されるケースが相次いでいるというのです。労働者を送つた国と遺族は「死亡原因を明らかにせよ」と迫つてているのですが、両国の話し合は平行線だといわれています。

